

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY REPORT ON PATENTABILITY

(Chapter I of the Patent Cooperation Treaty)

(PCT Rule 44bis)

Applicant's or agent's file reference PCT-2004-010	FOR FURTHER ACTION		See item 4 below
International application No. PCT/JP2004/008342	International filing date (<i>day/month/year</i>) 15 June 2004 (15.06.2004)	Priority date (<i>day/month/year</i>) 19 June 2003 (19.06.2003)	
International Patent Classification (8th edition unless older edition indicated) See relevant information in Form PCT/ISA/237			
Applicant SUMITOMO (SEI) STEEL WIRE CORP.			

1. This international preliminary report on patentability (Chapter I) is issued by the International Bureau on behalf of the International Searching Authority under Rule 44 bis.1(a).
2. This REPORT consists of a total of 4 sheets, including this cover sheet.

In the attached sheets, any reference to the written opinion of the International Searching Authority should be read as a reference to the international preliminary report on patentability (Chapter I) instead.

3. This report contains indications relating to the following items:

<input checked="" type="checkbox"/> Box No. I	Basis of the report
<input type="checkbox"/> Box No. II	Priority
<input type="checkbox"/> Box No. III	Non-establishment of opinion with regard to novelty, inventive step and industrial applicability
<input type="checkbox"/> Box No. IV	Lack of unity of invention
<input checked="" type="checkbox"/> Box No. V	Reasoned statement under Article 35(2) with regard to novelty, inventive step or industrial applicability; citations and explanations supporting such statement
<input type="checkbox"/> Box No. VI	Certain documents cited
<input type="checkbox"/> Box No. VII	Certain defects in the international application
<input type="checkbox"/> Box No. VIII	Certain observations on the international application
4. The International Bureau will communicate this report to designated Offices in accordance with Rules 44bis.3(c) and 93bis.1 but not, except where the applicant makes an express request under Article 23(2), before the expiration of 30 months from the priority date (Rule 44bis .2).

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland Facsimile No. +41 22 740 14 35	Date of issuance of this report 19 December 2005 (19.12.2005)
	Authorized officer Yoshiko Kuwahara Telephone No. +41 22 338 90 90

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

特許協力条約

RECEIVED	
24 SEP 2004	
WIPO	PCT

出願人代理人
山野 宏

あて名

〒 532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島6丁目1番3号 アス
トロ新大阪第2ビル10階 啓明特許事務所

様

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

21.9.2004

出願人又は代理人
の書類記号 PCT-2004-010

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
PCT/JP2004/008342

国際出願日
(日.月.年) 15.06.2004

優先日
(日.月.年) 19.06.2003

国際特許分類 (IPC) Int. Cl. ⁷F16B35/00, C22C23/00, C22F1/06, B21H3/06, B21K1/56, B21J5/00

出願人 (氏名又は名称)
住友電工スチールワイヤー株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

27.08.2004

名称及びあて先
日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
唐 強

3W 8714

電話番号 03-3581-1101 内線 3368

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-20	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-20	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-20	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: J P 7-278717 A (宇部興産株式会社), 1995. 10. 24
 文献2: J P 5-504602 A (アライド・シグナル・インコーポレーテッド), 1993. 07. 15 & WO 91/13181 A1
 文献3: J P 60-221142 A (株式会社神戸製鋼所), 1985. 1. 05
 文献4: J P 11-172359 A (古河電気工業株式会社), 1999. 06. 29

請求の範囲1-5に係る発明は国際調査報告で引用された文献1 (第1頁表1から第7頁表6) 又は文献2 (第2頁右下欄第10-26行) と文献3 (第2頁左上欄第6-15行) とにより進歩性を有しない。

マグネシウム合金を用いてネジを製造することは周知の事項であり、文献1, 2のマグネシウム合金を用いて引っ張り強さの大きなマグネシウム合金ネジを製造することは当業者にとって容易である。

尚、文献1のものは引っ張り強さが205MPa (実施例18) と記載されているが、本願のものとは数%の差異にすぎず、これと比べて本願のものが格別な効果を奏するとは認められない。

また、文献3のようにマグネシウム合金にZn-Zrを含ませることは当業者にとって容易である。

請求項6-20に係る発明は文献2又は文献3 (第2頁左上欄第6-15行から右上欄第8行) と国際調査報告で引用された文献4 (第3頁右欄段落【0008】から第5頁右欄段落【0023】) とにより進歩性を有しない。

マグネシウム合金を2段階で塑性加工させて、最終段の塑性加工を低温で可能とすることは文献3に開示されており、マグネシウム合金を文献4のように引抜 (抽伸) 加工した後にする転造加工を低温で可能とすることは当業者にとって容易である。

尚、請求項8-16の運搬、切断、熱処理の工程はいずれもネジの製造に際して当業者が適宜な程度の事項にすぎないと認める。